<令和7年5月定例記者会見>

1 開催日時

令和7年5月9日（金）午前10時30分～午前11時00分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、河北新聞社、読売新聞社

4 発表事項

（1）ごみ処理におけるCO₂削減の試験結果について（滝沢・雫石環境組合）

滝沢・雫石環境組合が運営するごみ処理施設は、化石燃料であるコークスを使用するため一定量のCO₂を排出することから、昨年度に続きバイオマスコークス置換試験を、令和6年1月16日から2月12日までに実施いたしました。

この試験の結果、使用するバイオマスコークスの採用品質基準について更なる緩和の可能性を確認し、今後取り組むべき試験の方向性などについて、有効な結果が得られましたことを報告いたします。

令和6年度は、一般的な輸入バイオマスコークス2種類に加え、ネピアグラスというイネ科の多年草を原料とした、生産性向上が見込まれる「持続可能なバイオマス原料」を用いたバイオマスコークスも試験の対象とし、置き換え量は少量ながら、結果は良好なものとなりました。

今後も、スラグ等の品質を落とす事無く、埋立物の最大圧縮・破碎残渣のマイクロプラスチックの消滅処理など、熔融炉の強みを最大限に活かしつつ、バイオマスコークスの調達めどがたった場合には、随時試験を行い、CO₂削減と費用対効果の検証にも、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

（2）滝沢市若者応援補助金について（若者活躍推進室）

市では令和7年4月から、若者世代の柔軟で斬新な発想により、社会活動へチャレンジする若者を応援することを目的とした、若者応援補助金の支給制度を開始いたしました。

この補助事業は、16歳から29歳の若者や若者団体が、滝沢市をフィールドに市のまちづくりや地域の課題解決等、「若者がやりたいこと」を実現するために補助をするものがあります。

また、事業の実現を支援する育成者でも補助対象となります。事業の周知及び取材についてよろしくお願いいたします。

（3）馬事振興に係る農業体験イベントの実施について（観光物産課）

この度、株式会社スタディアの主催により、チャグチャグ馬コに出馬する農用馬による田おこしや馬に農具を引かせ田んぼの土を砕き均一にならす「代かき」作業の体験会をはじめとした農業体験イベントが開催されます。

伝統行事であるチャグチャグ馬コの堆肥を活用した地域産米の特産品化と、その認知度拡大を図るとともに、これらの過程を体験できる新たな観光コンテンツの創出を目的として実施される本イベントは、第1回が令和7年5月17日（土）に開催され、第1回の馬

と代かき体験の中では、馬の引くタイヤチューブに乗り、ゆっくりと田んぼの中を巡る「泥チューブ」体験も実施されます。

滝沢市といたしましても、日常では体験できないような農用馬のアクティビティは馬事文化の振興や農業支援、農業の魅力発信など、市内農用馬の活躍機会の創出につながる新たな観光コンテンツとして期待しているところであります。

また、ここで収穫されたお米は、令和7年4月7日から開始したふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング限定の返礼品である、馬コ馬の馬耕で作るお米となります。

本クラウドファンディングは、100万円の目標に対し4月末現在で635,000円のご寄付をいただいております。引き続き皆様の温かい御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

イベントの詳細は別紙実施要領及びチラシのとおりとなりますので、マスコミ各社の皆様の取材方よろしくお願いいたします。

(4)「チャグバス」の運行開始について（都市政策課）

市と県北バスは、公共交通と観光事業の連携の取組として、路線バスとチャグチャグ馬コをタイアップした「チャグバス」を運行いたします。

「チャグバス」とは、チャグチャグ馬コ仕様に装飾した路線バスであります。公共交通であるバスの利用促進と、本市の主要観光資源であるチャグチャグ馬コのPRのため、市とバス事業者が協力し、平成30年度からチャグチャグ馬コの開催時期に合わせて運行しております。

今年度は、5月23日から6月14日のチャグチャグ馬コ当日まで路線バスとして本市近郊の路線で運行いたします。

なお、「チャグバス」の装飾作業は、運行事業者である県北バスのバス路線エリア内にある市内の川前保育園の園児の皆さんに協力をいただき、園内にて5月22日（木）午前10時00分から行うこととしております。

また、装飾作業に併せてチャグチャグ馬コやちゃぐぼんも出演いたします。

是非、園児の皆さんによって色鮮やかに装飾された「チャグバス」に多くの方にご乗車のうえ、ご覧いただきますようお願い申し上げます。また、6月14日のチャグチャグ馬コ当日には、壮大な馬コの行進をご覧いただきますよう併せてお願い申し上げます。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：コークス試験について、今年度の予定と将来的な計画について教えてください。

清掃センター所長：バイオマスコークスについては、定量で仕入れることが難しいものになりますので、年度内で調達可能か調査をしたうえで、調達可能と確認し次第仕入れの手続きをします。そのため、令和7年度の実施に関しては今のところは未定です。調達のめどが立った場合、試験は続けたいと考えています。将来的には、施設そのものは令和13年度まで運営を続ける予定ではありますが、最後の年まで可能な限りCO2削減対策として、価格の折り合いがつく範囲で試験を続けていきたいと考えています。

市長：補足ですが、第2次総合計画策定時のヒアリングにて、地球温暖化について発言が

あったのは子供たちからでした。清掃センターは小中学生が見学に来る機会も多いので、このようなことを伝えながら、CO2削減に取り組んでいきたいと考えています。

記者：令和13年度まで運営というのは、ごみ処理施設のことでしょうか。

清掃センター所長：そうです。令和14年度以降は、盛岡地域のごみ処理施設と統合となる予定でした。

記者：若者応援補助金について、実施は初めてでしょうか。また、応援の先に目指す未来像を教えてください。

若者活躍推進室長：今年度から初めて実施する補助金です。令和5年度に若者活躍推進室ができて以来、全く関わりがなかったわけではなく、若者がやりたいことを市が直接応援し共に事業や、取り組みを行っていました。その中で、もう少し若者が自分たちで自由に取り組めるような仕組みはないかを考え、補助金制度の導入に踏み切ったところです。

市長：滝沢ミライプロジェクトという取り組みの中で、若者に滝沢市の課題や、将来についてどのような仕組みがあればよいかなどを発表していただいているのですが、考えていく過程や試験的に様々なことを行っていく中で、どうしても資金が必要な場面があります。そこで、少しでも取り組みやすいように補助金を用意させていただいて環境を作っていくということで今年度から導入した次第です。

記者：この補助金の対象事業は、まちづくりや地域課題の解決と記載されていますが、市政の発展につなげてほしいのか、もしくは若者自分がやりたいことにチャレンジしてほしいのか、願いとしてはいかがでしょうか。

市長：自分が暮らしてきた中で何が課題か、また、将来滝沢市がこうなればいい、こうあるべきではないかということと併せて提言していただきながら、様々な課題を見つけ、若者たちの感性の中で取り組みを実施していただければなと考えています。昨年度の滝沢ミライプロジェクトでは、観光コンテンツを作っていけばいいのでは、などという提言を頂きました。このような提言を資金面で支援することで、更に新たな取り組みにつながるように、一緒になって考えていきたいと思っています。

記者：補助金交付までの流れを確認させていただきたいです。申請の後は審査が行われるということですが、随時行うのでしょうか。

若者活躍推進室長：県でも類似の補助金がありますが、そちらは審査会日程があらかじめ決まっているものです。滝沢市は、申請の都度審査を行います。期限も設けずに実施していく予定です。

記者：また、現時点での応募はありますか。また、在住地は滝沢市でなくとも申請可能ですか。

若者活躍推進室長：現時点での応募はまだありません。4月1日から動き出し、各大学などへ周知しているところです。在住地は、滝沢でなくとも、滝沢で活動してくださる方が対象です。今までも、就職して首都圏に在住している方で、滝沢で何かしたい、と色々な事業をしてくださった方もいらっしゃったので、そういった方々の活動費に充てるといったことも想定しています。

市長：盛岡農業高校や盛岡北高校の学生にも取り組んでいただければと思っています。

記者：コークス試験について、毎年行っているのですか。また、いつから行っているのですか。

すか。試験ということですが、ある程度、CO2が削減されると分かっていて、削減のために行っているものなのですか

清掃センター所長：石炭コークスを元々使っていて、バイオマスコークスへ置き換えた分は必ずCO2を削減できるという前提条件になっています。試験を開始したのは令和5年度からで、2か年連続で行っています、昨年度も6月の定例記者会見にて結果を報告しました。令和6年度は量を増やし、また、持続可能なバイオマス原料としてネピアグラスというイネ科の多年草を使用し、これを使えるかどうかの試験を新たに入れました。

記者：若者応援補助金について、盛岡市などの他市では同様の取り組みを行っているのでしょうか。

若者活躍推進室長：県では上限額30万円で実施しているのは把握しています。条件は異なりますが、県の補助金は倍率が高いため、採択されなかった方が滝沢の制度を利用させていただくのも想定しています。近郊ではないですが、全国では同様の補助金があります。滝沢市独自の点としては、居住地が滝沢でなくとも、活動地が滝沢であれば使用できるという点と、学生が活動することを応援する支援者も交付対象になっている点です。

記者：農業体験イベントについて、今年度初めての開催でしょうか。新しい点はどのような点でしょうか。

観光物産課長：現在までも馬コを使った代かきイベントはありました。今回のイベントは、収穫、試食までの1年をかけて行う点が新しい点となっています。また、馬を扱う方も、チャグチャグ馬コへ出馬する若手の方が馬に慣れるように研修も兼ねている部分もあると聞いております。

市長：収穫したお米はクラウドファンディングの返礼品にも登録されています。

記者：1年間を通じて行い、同じ田んぼで稲を植えて、収穫するまでが初めてということではよろしいでしょうか。

観光物産課長：そうです。

記者：若者応援補助金について、若者の柔軟で斬新な発想を期待して、ということですが、現時点で具体的な事業は想定しているのですか。

市長：例えば公共交通などの社会課題に対して「こうあればいい」、「このように情報提供してもらえばいい」と、若い人の感性の中で感じていることに対して取り組んでもらえばいいなと考えています。

6 その他記者からの当日質問

特になし。